

シンポジウム

「野生動物管理の体制と資源的利用のあり方を考える」

アンケートの集計結果

本シンポジウムの参加者は 181 名に達し、96 名の方からアンケートへの回答を頂きました。この回答にもとづき参加者の属性・意識等を集計し、野生動物管理全国協議会としての今後の方針等について協議しましたのでご報告申し上げます。

1. 民間企業・団体の所属が 45%であったことから、鳥獣の捕獲や資源的活用に関する諸事業への関心の高さが窺われました。次いで多かったのは学生（25%）でした。これは、野生鳥獣関連の職域への就職を希望する若い世代が多いことの反映と思われる。この結果を踏まえ、本協議会でも教育・人材育成面での活動を強化したく考えております。また、行政関係の参加者が 13%に達していたことから、施策に関わるシンクタンク的な機能を果たすとともに、積極的な政策提言を行うこととさせていただきます。
2. 本シンポジウムの情報は、知人から得たとの回答が 48%、SNS を経由したとの回答が 19%を占めていたことから、鳥獣対策に関わる様々なネットワークや情報交換が活発に機能していることが明らかとなりました。
3. シンポジウムの満足度は、満足が 54%、大体満足が 40%であり、両者を合わせると 94%となりました。これは、本シンポジウムで提示された課題や提言等に賛同された方が多いことの表れと解釈されます。一方で、不満とした回答も 2%存在したことから、今後のシンポジウム等では参加者の立場に立ち、より丁寧な運用と説明を行うよう留意致します。
4. 今後のシンポジウムへの参加希望につきましては、参加したいが 71%、検討するが 21%に達したことから、90%以上の参加者が本シンポジウムで有用な情報を得たものと判断されます。つきましては、本協議会では今後とも同様なシンポジウムを開催し、情報発信を続けたく考えております。
5. 野生動物管理全国協議会に期待する役割（複数回答可としたため回答数で表記します）としては、政策提言が 56 で最多となり、次いで人材育成が 53、地方自治体への助言が 38 となりました。この結果を受け本協議会では、引き続きこれら 3 項目を重視した活動を展開して参ります。また、最新・海外事例の情報提供も 37 であったことから、国内外における諸情報の提供機能も強化するように致します。

以上